

福島第一原子力発電所 EエリアD1タンクの解体完了

- 福島第一原子力発電所では、事故当時に1～4号機の汚染水を貯めていたフランジ型タンクから、漏えいリスクの低い溶接型タンクへの切り替えを進めてきました。
- 事故当時に汚染水を貯めていたフランジ型タンクについては、2015年5月からH2エリアタンクの解体を開始して以降、全334基中333基の解体が完了しています。
- 最後の1基となるEエリアD1タンク※は、2025年11月17日にタンク内のスラッジ回収が完了し、その後、タンク内の洗浄および除染作業が完了したことから、2026年5月12日から解体に着手しています。
- Eエリアの解体跡地には、2号機の燃料デブリ取り出し関連施設の建設を計画しています。

※ Eエリアのタンク解体は、2019年5月から開始しており、2024年7月までに全49基中48基の解体を実施済みです（D1タンクのみ未解体）。

<2026年5月11日までにお知らせ済み>

- 2026年6月15日、EエリアD1タンクの解体が完了しました。
- これに伴い、2015年5月から約11年にわたり実施してきた、事故当時に1～4号機の汚染水を貯めていたフランジ型タンク全334基の解体が完了しました。
- 引き続き、福島第一原子力発電所の廃炉におけるリスク低減に向けて慎重かつ安全最優先で作業を進めてまいります。

【Eエリアタンク】

容量 : 1,000m³/基

基数 : 全49基（解体済み）

直径 : 約12m

高さ : 約10m



EエリアD1タンク解体作業の様子（2026年5月12日）



D1タンク解体後のEエリアの様子（2026年6月15日）

[参考] Eエリアフランジ型タンク解体の概要

- Eエリアは、2019年5月からフランジ型タンクの解体作業を実施しており、2024年7月までに全49基中48基の解体が完了しました。残る1基であるD1タンクについては、他タンクの水移送の際にタンク底部の残水をD1タンクに集積したことから、2022年6月からスラッジの回収作業を実施し、2025年11月に回収を完了しました。
- その後、タンク内部の洗浄および除染作業を行い、2026年5月12日から解体作業に着手し、2026年6月15日に完了しました。
- タンク解体にあたっては、これまでのフランジ型タンク解体実績を踏まえ、解体方法の標準化※を図るとともに、レーザー除染等の新技術を導入することにより、高濃度に汚染されたタンクについても安全に解体をすることができました。
- また、粘性が高いスラッジの回収についても、構外においてポンプ吸引および作業手順の確認を目的としたモックアップ試験を実施することで、トラブルを発生させることなく、安全に回収することができました。
- Eエリアにおけるタンク解体は、約7年にわたり実施してきたものであり、大きなトラブルを発生させることなく完了することができました。

※作業安全や放射性物質の飛散防止などを目的にタンク解体の作業手順を統一化する取り組み



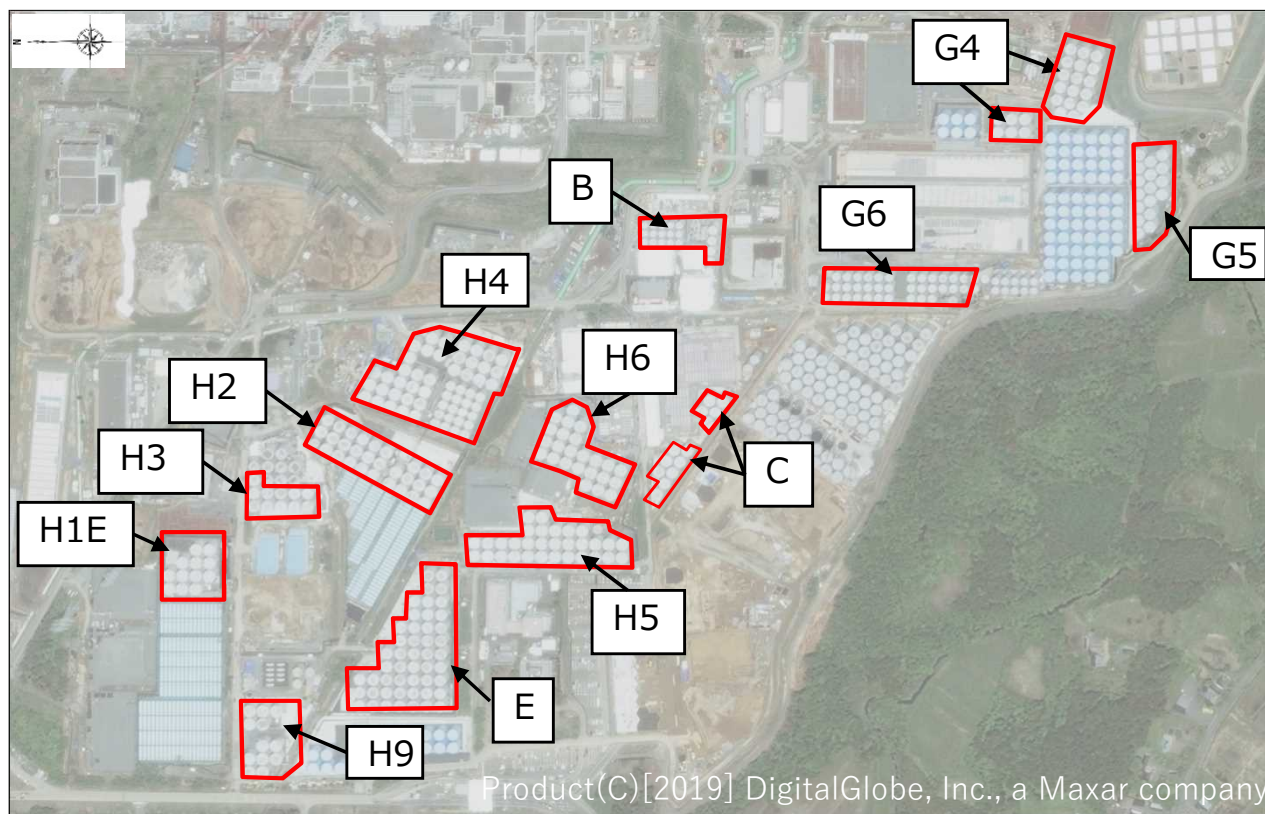
EエリアD1タンク内を洗浄する様子 (2025年12月24日)



Eエリアタンク内におけるレーザー除染の様子 (2022年5月24日)

[参考] フランジ型タンクの解体完了について

- 事故当時に1～4号機の汚染水を貯めていたフランジ型タンクの334基※は、タンクからの漏えい事案が発生したため、より信頼性の高い溶接型タンクへの切り替えを行うべく、2015年5月から解体作業に着手しています。
※構内には、既設ALPSサンプルタンクなどのフランジ型タンクがあり、これらは計画に含まれない。
- 解体作業は、放射線管理下での作業であることに加え、狭いエリアでの重機作業や、周辺設備への影響防止に十分配慮する必要があり、安全確保と作業効率の両立に努めてきました。また、被ばく量の低減や二次的な汚染拡大の防止に向けた対策を徹底しながら、段階的に作業を進めてきました。
- その結果、2026年6月15日をもって、約11年かけて進めてきたフランジ型タンクの解体作業を、大きなトラブルを発生させることなく、無事完了することができました。



フランジ型タンク解体対象エリア（2017年撮影）